

新指定貴重書および準貴重書について

— 第36回貴重書等指定委員会 —

<洋書の部>

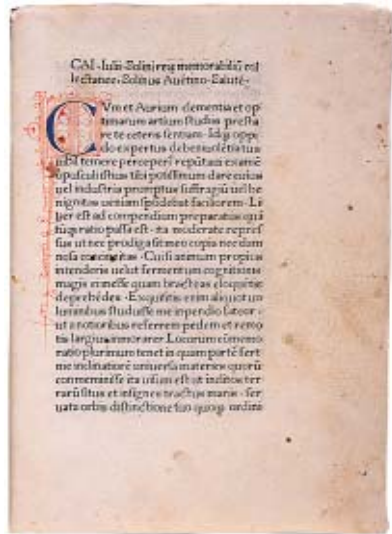
貴重書

1 ソリヌス『ポリヒストル』(1474-75)

Solinus, C. Julius, 3rd cent.? [Polyhistor, sive De mirabilibus mundi]. [Rome : Johannes Schurener, de Bopardia?, 1474-75] 120 leaves ; 21cm. (4to and 8vo) Title and imprint from Goff. Signatures:[a⁴, b-i¹⁰, k-l⁸, m-n¹⁰]Type : 101R¹ Goff S616; BMC IV 59

<WA42-89>

ソリヌスは3世紀前半頃に活躍したローマの文法家、編纂者で *Collectanea rerum memorabilium* を著したが、本人または別の誰かによって改訂され、以後 *Polyhistor* のタイトルで流布した。153点の現存写本が確認されている。また10点のインキュナブラが知られているが、本書はヴァチカンの写本 (Vat. Palat. Lat. 1570) に基づいたもので、インキュナブラとしては2番目に当たる。最初の版は1473年にニコラ・ジャンソンが印刷しており、こちらは Arundel 写本に基づいている。本書には印刷者に関する情報が全く記されていないが、使われている美しいローマン体活字からローマの印刷者 J. シュレーナーが印刷したものと推定され、またこの活字が使われた期間が1474年から75年であることから、印刷年も1474-75年であると推定されている。



『ポリヒストル』はポンポニウス・メラ『コスモグラフィア』やプリニウス『博物誌』などから古代世界の不思議な事柄や事物を抜粋して地理学的な著述方法でまとめたものである。

2 ニッコロ・レオニチェーノ『大プリニウスおよびその他の大部分の刀圭家の医学上の誤りについて』(1509)

Leoniceo, Niccolò, 1428-1524. *Nicolai Leonicei Vincentini De Plinii, et plurium alioru[m] medicorum in medicina erroribus opus primu[m] Angelo Politiano dedicatu[m]. Eiusdem Nicolai Epistola ad Hermolaum Barbarum in primi operas defensionem.* … Ferrariae : Ioanne[m] Maciochiu[m], 1509. q[ua]rto cale. Maii.[i.e. 28 Apr. 1509] [6], 95, [1] leaves ; 21 cm. (4to) Signatures: [*]⁶, a-n⁸

<WA42-90>

ニッコロ・レオニチェーノは著名な文献学者で、ギリシア語・ラテン語に精通し、古代ギリシアの医学書、特にガレノスやヒポクラテスをラテン語に翻訳した。本書はプリニウスの著作中に見られる薬剤に関する記述や、他の刀圭家たちの著述に対するレオニチェーノの批判的論文を集めたもので、1509年にフェラーラでG.マツォッキにより刊行された初版である。マツォッキはL.アリオスト『狂えるオランダ』初版(1516)や本書など20点ほどの出版物を刊行している。

本書は、第1編「ニッコロ・レオニチェーノがアンジェロ・ポリティアーノに献呈した最初の著作である大プリニウスおよびその他の大部分の刀圭家の医学上の誤りについて」、第2編「同じくニッコロが最初の弁明書についてエルモラーオ・バルバロにあてた書簡」、第3編「同じくルチェンツァの医師フランシスコ・トッティにあてたプリニウスおよびその他の刀圭家の医学上の誤りについて」、第4編「同じくニッコロがヒエロニム・メノーキウムにあてた書簡、一部は…治療薬の取り扱いについて、一部はひきつづきプリニウスおよび…医学上の誤りについて」という4つの著作からなっている。第1編は1492年に小冊子で出版(Ferrara: Laurentius de Rubeis)されたが、他の3つの著作は本書が出るまでは写本の形で流布していた。

3 ウィトルウィウス『建築書』およびフロンティヌス『ローマ市の水道書』(1513)

Vitruvius Pollio. *Vitruvius iterum et Frontinus a Iocundo reuisi repurgatique quantum ex collatione licuit.* Florentiae : sumptibus Philippi de Giunta, 1513. [4], 187 [i.e. 188], 34 [i.e. 24], [24] leaves : 140 ill. (woodcuts) ; 16 cm.(8vo) Signatures: [*]⁴, A-Z⁸, AA⁴, a-c⁸, A-C⁸

<WA42-91>

ウィトルウィウスはアウグストゥス帝の時代に10巻からなる『建築書』*De architectura*

を著したが、この書は現存する唯一のローマ建築書として知られている。現存する写本の数は約55点にのぼり、そのうち4点が原著にもっとも近いものと推定されている。最初の版本は1486年頃 Giovanni Sulpitio の編集によりローマの Eucharius Silber (別の説では Georgius Herolt) が刊行した。続いてヴェネツィアで1495年(別の説ではフィレンツェで1496年)と1497年にも刊行されている。16世紀に入ると、フランシスコ会士 Fra Giocondo の校閲による初めての挿図入り本が1511年にヴェネツィアで Giovanni Tacuino により刊行された。本書は1513年にフィレンツェで F. ジュンタの刊行した増補版であり、挿図が増えたほか、フロンティヌスの『水道書』*De aquis urbis Romae* を収録している。小型のイタリック体で印刷した八折版で、挿図は初版の図を縮小してやや粗雑に彫り直したものになっている。

4 ヒエロニムス・ボック『本草書』(1546)

Bock, Hieronymus, 1498-1554. *Kreüter Buch, darin Unterscheid, Würckung und Namen der Kreüter so in Deutschen Landen wachsen auch der selbigen eigentlicher und wolgegründter Gebrauch inn der Artzney fleissig dargeben, Leibs Gesundheit zu behalten und zu fürderen seer nutzlich und tröstlich vorab dem gemeinen einfaltigen man* … Strasburg: bei Wendel Rihel, 1546. [20], cccliii, [7], lxxi, [1] leaves: ill. (woodcuts); 34cm. (fol) Signatures: a-e⁴, A-Z⁶, Aa-Zz⁶, AA-NN⁶, [γ]⁶ a-m⁶

<WA44-13>

ヒエロニムス・ボックは16世紀の本草学者で、O.ブルンフェルス(c. 1489-1534)、E.フックス(1501-1566)と共にドイツ植物学の父と称されている。ラインラント地方などを広く旅し、1539年に主著『新本草』*New Kreütterbuch* を発表した。本書はこれに477の木版画図版を付け加えた第2版で、挿図のあるものとしては最初の版にあたる。図版の多くはブルンフェルスとフックスの著作から借用したものだが、約100ほどはシュトラスブルクの画家ダヴィット・カンデルが本書のために製作したものである。

全3部の構成で、最初の2部では草木、第3部では低木と高木を扱っている。約700の植物が、400以上の章の下、名前、効能、使用法などについて叙述されている。ボックはディオスコリデスなどの権威を典拠とするのではなく、自分自身の観察に基づき、母語であるドイツ語で表現力豊かに植物を描写した。そのため本書の本文は、近代植物記述法の原型として高く評価されている。

5 ピエール・ブロン『魚類誌』(1551)

Belon, Pierre, 1517-1564. *L'histoire naturelle des estranges poissons marins, avec la vraie peinture & description du daulphin, & de plusieurs autres de son espece...* A Paris: de l'imprimerie de Regnaud Chaudiere,

1551. 55, [3] leaves: ill. (woodcuts) ; 23cm. (4to) Signatures: A-H⁴,
Aa⁴, K-N⁴ O² P⁴

<WA42-92>

ピエール・ブロンはフランスの博物学者で、広く旅を行い、ヨーロッパ各地のみならず1546年から50年にかけてはギリシア、トルコ、シリア、エジプトを旅行し、魚類、鳥類、植物などを研究した。その成果をもとに様々な著作を発表しており、本書はイルカやカバも含めた魚類に関する著作である。魚やイルカを系統的に分類するとともに、体内の構造について比較解剖学的な視点から論じているため、今日、ブロンは比較解剖学の創始者と見なされている。本書は魚類を専門に扱ったブロンの著作の中で最初に出版されたものであり、21の木版挿図を含んでいるが、1553年には図版を187に増やしたラテン語版 *De aquatilibus libri duo* が出版され、こちらはK.ゲスナーが『動物誌』の中で利用したことで有名である。

6 ピエール・ブロン『鳥類誌』(1555)

Belon, Pierre, 1517-1564. *L'histoire de la nature des oyseaux, avec leurs descriptions, & naïfs portraits retirez du naturel: escrite en sept liures* ... A Paris: chez Guillaume Cauellat, 1555. [28], 381, [1] p: ill. (woodcuts) ; 34cm. (fol) Signatures: a[m]⁶, e[m]⁴, i[m]⁴, a-f⁶ g⁴ h-m⁶ n⁴ o-t⁶ v⁴ x-z⁶, A-E⁶ (-A6) F⁴ G-I⁶ K-L⁴ (-L4)

<WA44-14>

本書はブロンの鳥類学の著作で、直接の観察と独自に作画した挿図で高く評価される。全7書の構成で、コウモリを含む約230種の鳥が猛禽類、水鳥、陸生の鳥、樹上に生息する鳥など6種類に分類されている。ほとんどがヨーロッパの鳥だが、東方旅行の際にブロンが観察した鳥も数種類含まれている。この本にはジル・コロージェ (1510-1568) 刊行のものと、ギヨーム・カヴェラ (d. 1576) 刊行のものがあるが、両者とも同じ印刷業者ブノワ・プレヴォ (d. 1562) によって印刷され、同じ1555年に発行されている。本書はカヴェラの刊行したもので、彼は肥えた雌鶏 *pingui gallina* を店の看板や商標として用いたので、本書にもそのプリンターズ・マークが見られる。

本書にはブロン36歳の時の肖像、鳥と人間の骨格図など161の木版画が挿図として付いており、多くの図版にはロレーヌ十字架、矢印、黒い升型を白抜きした十字架のマークが入っているが、これらは図版を製作した画工を示すマークと思われる。

7 リバデネイラ『イグナティウス・デ・ロヨラの生涯』(1586)

Ribadeneyra, Pedro de, 1527-1611. *Vita Ignatii Loiolae qui religionem clericorum Societatis Iesu instituit* ... Madriti: apud viduam Alphonsi Gomezij regij typographi, 1586. [12], 347, [13] leaves; 15cm. (8vo) Signatures:

<WA42-93>

ペドロ・デ・リバデネイラはイグナティウス・デ・ロヨラ（1491-1556）の最初の弟子となったイエズス会士で、聖人伝を多数著し、ロヨラの伝記や聖人列伝 *Flos sanctorum*（1599-1601）が有名である。またイエズス会士の著作目録 *Illustrium scriptorum religionis Societatis Iesu catalogus* を初めて刊行したことで知られている。リバデネイラのロヨラ伝は彼についての初めての伝記であり、ロヨラ伝の古典として定評のある著作である。草稿はスペイン語で書かれたらしいが、初版は1572年にナポリの Giuseppe Cacchi がラテン語版で出版した。本書は1586年にマドリッドで Alonso Gómez の未亡人が出版した第2版である。

5書からなり、イエズス会士の海外における使命についても言及されている。特に第2書第19章 "de fidei Christianae apud Indos propagatione" では、豊後、有馬、日向の国におけるイエズス会の使徒について記されている。

8 ウィリアム・ギルバート『磁石論』（1600）

Gilbert, William, 1544-1603. *Guilielmi Gilberti Colcestrensis, medici Londinensis, De magnete, magneticisque corporibus, et de magno magnete tellure : physiologia noua, plurimis & argumentis, & experimentis demonstrata.* Londini : excudebat Petrus Short, 1600. [16], 240 p., 1 folded leaf of plate : ill. (woodcuts) ; 32cm. (fol) Signatures: *8, A-V⁶

<WA42-94>

ウィリアム・ギルバートはロンドンの高名な医師で、エリザベス1世の侍医を務めた。開業医のかたわら20年近くにわたって実験を続け、磁石と磁気現象について論じた『磁石論』を著した。彼はこの書で「地球は磁性体であり、巨大な磁石である」という結論を下している。また、地磁気の航海術への応用についても研究し、航海術および航海器具について記述している。

本書は『磁石論』の初版で、多才な印刷者ピーター・ショート(d.1603)が印刷・刊行したものである。彼(および死後その妻)は宗教書から実用(応用)科学書、文芸書、音楽書と広範囲にわたる分野の優れた印刷物を多く生産しており、1590年から1605年までの15年間に再刊を含め211点の出版物を印刷している。『磁石論』は17世紀に入って、さらにラテン語で二版を重ねたが(Stettin, 1628, 1633)、英訳が出たのは19世紀の終わりになってからであった。

(貴重書等指定委員会)

*和書の部、新聞・雑誌の部は、それぞれ14頁、17頁から始まる。